新潟県透析医会だより

鈴木正司

1　医会の設立経緯と組織

新潟県の透析医会発足は，昭和52年の日本透析医会の前身である都道府県透析医会連合会の設立と時期を同じくしています．その当時から平澤由平先生が本会の設立に尽力されていたこともあって，先ず地元からの組織作りが必要と努力された結果でもあります．

現在の社団法人日本透析医会の会長がその平澤由平先生であり，新潟県透析医会の会長は大森伯先生が務めておられます．

新潟県の透析医療の歴史と伝統は長いのですが，その源は新潟大学第二内科（当時は木下康民教授）の平澤由平先生らの研究グループに始まります．当初の大学の研究グループから出張先の関連病院へ出て始めたり，独立して開業する形で少しずつ県内外に広げられて行きました．

このようにわが国における透析施設の設置と普及は，多くの場合に民間医療機関主導で進められた場合が多いものです．

しかしその後の新潟県における透析医療施設の配置には，現在は新潟大学学長であられ，先の新潟大学医学部長で第二内科教授であられた荒川正昭先生の多大な御尽力によるところが少なくありません．すなわち，透析空白地域の県内のほとんどすべての県立病院に透析施設を配備し，そのスタッフの派遣調整に努力されてこられたのです．その結果，現在では県内の腎不全の患者は，自分の住居近くの透析施設で楽に治療を受けることができるようになりました．

また最近では，東京女子医大の太田和夫先生の下から戻られた泌尿器科の高橋公太教授が，精力的に腎臓移植を行っておられ，移植医と透析医との連携関連を重要視されておられます．

このような経過から，新潟県透析医会には大学関係者（荒川正昭学長，下条文武第二内科教授，高橋公太泌尿器科教授，西慎一血液浄化部助教授）も，県立・市立病院の腎・透析部門を受け持つ医師も，民間病院・医院の医師も一緒になって活動しているのが特徴的といえるでしょう．

平成11年4月現在での新潟県透析医会の会員には43名が登録されております．

2　活動状況

1）　学術活動

県単位の学術活動としては，古くから続く「新潟透析懇話会」があり，その事務局は信楽園病院におき，事務局長は酒井信治先生が務めております．参加施設は50施設52組織で，今年で第41回を数えます．毎年，会長は持ち回り制で行っておりますが，本年は燕労災病院内科の清水道子先生が会長で，長岡市を会場として4月18日に開催しました．

特別教育講演1題，一般演題33題の発表を盛り込み，日本透析医学会の地方学術集会として認定されております．

2）　透析医会の連絡会議

「新潟透析懇話会」の昼休みに行われる施設連絡

信楽園病院内科

会議では，以前より本会に関する審議事項に加え，新潟県透析医会の連絡会議を兼ねる形をとっております．県の透析医会の会長選出も隔年毎，この会議で行われております．

3） 医会の活動

主要な活動業務は以下の如くであります．

- 日本透析医会からの透析医療調査（平成10年6月分レセプト）分析依頼につき，三施設で実施．
- 新潟県腎臓バンク理事会（新潟大学，有壬記念館）への出席2回．
- 新潟県腎不全対策検討会議（新潟県庁/勤労福祉会館）への出席2回．
- 新潟県医師会平成10年度腎不全対策委員会（県医師会館）出席．
- 「臓器移植法一周年記念の集い」（新潟県腎臓バンク，新潟県腎友会主催）の後援．

4） 災害対策訓練

日本透析医学会からの要請もあり，新潟地震から34年が経過していることから，新潟県内での大規模災害（地震）を想定した災害対策の訓練を計画することとなりました．

現在，高橋幸雄（信楽園西川診療所）先生が中心となり，県央地域が地震により重大な被害を受け，同地域での透析が相当期間不可能となった場合を想定した合同訓練の素案を立案中であります．訓練案ができあがった段階で，各施設間や地域間との通報連絡訓練を実施する予定になっております．その折りには医学会からの若干の予算配分を期待しております．